



発表会が終わりました。ありがとうございました。

発表会が無事に終わりました。出演した生徒さんが、次の日起きて来るなり「もう発表会の練習することないんだ！」と号泣した話や、お母さんに、「発表会の振り付けが始まったその日に戻してほしい」と訴えた話が耳に入ってきて、こんなに言ってもらえて幸せだったなと感じています。わたしたちの方こそ、一生懸命練習した日々に戻りたいし、もう練習しないんだと思うとすごく寂しいよ。みんなと練習できていっしょに踊れて本当によかったです。今回は、出演者と保護者ではないみなさまに感想をいただいています。みてくださってありがとうございました。

先日の発表会は、観客席から拝見させて頂きました。ダンスを始めたばかりの小さな子がキラキラの笑顔で一生懸命に踊る姿や同級生を見て、受験のために出演を断った事を後悔しました。特に、守りが最後1人でスポットを浴びているシーンが印象に残りました。そして、「私は植物が光合成する様にスポットライトを浴びて成長してきたんだ！」と思いました。私がモダンバレエを始めたのは小3の冬で、9年になります。ダンスを続けることで沢山の人の出会いがあり、刺激を貰いました。日常生活に無くてはならないものとなり、ダンスがあるからダンス以外のことも頑張ってきたのだと思います。大学の進路もダンスが出来る環境のあるところに決めました。これからも表現を通して、成長して行きたいと考えています。

木村はな

私はやはり、第1ステージの、メッセージ性の強い舞台に感動を受けました。手拍子、足拍子などの素朴なリズムを背景にした、黒っぽい装束の踊り手の群舞に圧倒されました。何が言いたいのかストレートに伝わってきたようでした。今後もこうした舞台作りを追求して行ってください。全体として感じたのは、若いというか、幼い踊り手が非常に多く、将来どういった花が咲くのか楽しみです。舞踊研究所としては、非常に健全な歩みを進めておられると感じました。今後とも、モダンバレエという肉体を通じての芸術表現の世界を集団として研鑽されて、素晴らしいステージを作られることを祈念しています。有難うございました。

中村陽一

私は学生時代にモダンダンスをしていました。姪からモダンバレエを習い始めたとき聞いた時は不思議な縁を感じ大変うれしく思いました。発表会の舞台が私も立たせていただいたことのある神戸文化ホールということで、懐かしい思いで胸がいつぱいになりました。様々な年代の方が一つの作品を作り上げることは私にはとても新鮮でしたが、一人一人の個性が活かされており、全員が主役と思える素敵な発表会でした。感動をありがとうございました。奈良女子大学モダンダンス部06 白石留美子

初めて発表会を拝見しました。演じる側の表現や想いが、こちら目から耳から感じる事ができました。貴重な体験をさせて頂きありがとうございました。

イズミヤ株式会社 文化担当 井上薫

藤田佳代舞踊研究所鑑賞歴30年。発表会といっても、一つの作品に作り上げる舞台を楽しみにしています。きっと、生徒さん達も楽しかったでしょう。舞踊団の踊りはどこか、祈りを思わせず。字数の関係で「シンカイとぼくの はじまりの祭り」について、感想を書きます。

オープニングは舞踊団メンバーが演じるレベルの高い踊りから始まり、緊張感がみなぎります。神々が、客席から退場してゆくのも、去っていく感じが増幅されるように感じました。舞台美術は、月がだんだん動いていく様子が月の出の時間が変わっていくようなイメージで面白く思いました。心に残った演目について、感想を書きます。

「土の守りとの出会い」ではリズムクラスが心のままに跳ねる姿が楽しそうに個性がいかにしたい振り付けだと思いました。衣装も可愛らしくてよく似合っていました。

「地駆けもの守りとの出会い」は力強い踊りでとてもよかったです！振り付けも面白く思いました。中学生と高校生くらいのクラスと聞きましたが、お姉さん達に負けず、しっかりとした踊りでとても上手でした。「地もぐるもの守りとの出会い」はこの振り付けが一番面白く思いました。かじのり子さんの振り付けと伺いました。彼女の振り付けは、ちょっとオドロドロシイところがあって、ユーモラスでいつも注目しています！きっと、踊っている子供達も楽しかったと思います。

「火の守りとの出会い」は流石の舞踊団の方々が入っている仕上がりでした。途中で衣装を早変わりするところも面白かったです。「風の守りとの出会い」は衣装と髪のリボンがヒラヒラ揺れて、身体の動き以外の動きが風を思わせました。最後の「全部抱きしめて」は、大好きです。客席から、踊れる子供達が舞台上に駆け上がって、いろんな年代の人たちが踊っているのを見ると、楽しそうで、ノリノリで手拍子をしてしまいます。次は、金沢景子さんのリサイタルですね！ジャズとのコラボレーションは、大人の魅力たっぷりの景子さんにはピッタリです。楽しみにしています。

井川幸子

発表会はいつもちいさなお子達や身体の不自由な方達各々に役割を与えて、その構成は素晴らしいです。後半のロック調の音楽も新鮮でした。只、出演者のお知り合い以外の観客の為に、「藤田佳代舞踊研究所」のアピールとして（物語の中に含まれていると思います）、先生方ダンサーのひと幕を物語終了とフィナーレの間に数分挿入するのはいかがでしょうか？「飛翔」とかなんとか。

喜福加代

初めてモダンダンスの発表会を観て特に印象に残っているのはオープニングの「届ける」です。音楽に合わせて踊るのではなく自ら音を作り重ね合いながら表現する。複雑な舞台背景もなくシンプルでとても心に響いてきました。思わず「かっこいい」と思ってしまいました。昔から人々は天災が起こる度踊り祈りを捧げてきたように今回のテーマでもある災害で亡くなられた数限りない命たちへ思いが届いたのではないかと思います。他二作品は子供達はとてもかわいらしく微笑ましく思いまた年齢の幅広さにも驚かされました。皆さんすごく練習されたことと思います。また成長した姿に出会える日を楽しみにしています。素敵な時間をありがとうございました。

尼崎スポーツの森 藤井由枝

藤田佳代舞踊研究所発表会はかれこれ夫婦で20年位見せて頂いています。患者様に来て頂いた先生、生徒さんは、パンフレットを見ながら注目させて頂いて、毎年楽しみにしています。知っている娘さんが年々成長され、一生懸命に踊られている姿を見せて頂くのは幸せな事です。最近特に先生方の手作りの舞台装置で綺麗に演出されているなどお忙しい先生方の陰のご努力、素晴らしいなと思っています。定番になっている「届ける」は男性陣と一体になり益々磨きがかかって素敵でした。お話2つは、身近な物に目を向けたお話と、震災に関係する神様のお話、毎回オリジナルのお話考えられて、演じられてどちらもとても素敵でした。最後のやべんどさん生バンドの「全部抱きしめて」では、観客を招いて全員が踊る、そのそれぞれの表情、振り、らしさが出ていて音楽とともに楽しめます。学生さん、それ以上の若手の皆さんがとて美しくしっかりと成長されていて、見るのが本当に楽しいです！益々のこれからのご発展を期待しています。いつも楽しませて頂きありがとうございます。

伊木接骨院 伊木晴彦 恭子

みにきてください！

金沢景子モダンダンスリサイタルV 11月25日(日) 神戸ファッション美術館 オルビスホール 17:30開演
～彼方からここへここから彼方へ～ 虚空から成る 風を宿す 火は生じる 水と巡る 地に立つ

出演 寺井美津子 菊本千永 かじのり子 向井華奈子 石井麻子 板垣祐三子 梁河茜 平岡愛理 田中文菜 佐藤茉莉 稲益夢子 菊原麻衣花
木村はな 清河鈴羽 田口寧々 菊原麻理奈 渡邊菜子 村上美羽 坂本のより 中野茉歩 金沢景子

この度、なんと5回目のリサイタルを開催させていただき運びとなりました。自然の脅威を体験したり、日夜様々な課題もある中、こうして踊らせていただけることは本当に有り難いことと心から感謝いたします。前回のリサイタルまで佳代先生がソリストを柱とした作品を創っていただきましたが、今回からはすべてをソリスト自身で創り発表するということになりました。これは、今までにない大仕事だと覚悟を決めたものの、どうしていいかわからない状況でした。でもふと見回すと、私の周りには仲間のダンサーや素晴らしいミュージシャンの方々がたくさんいらっしゃいます。これは一緒に何かを創りなさいというおかげかもしれないと思い込み、畏れながらもお願いして演奏していただけることになりました。選曲したものを演って頂くかと考えていましたが、深水カルテットのメンバーである坂本千恵さんが作曲して下さるとのお言葉に、願ってもないことだと創っていただきました。「彼方からここへ ここから彼方へ」は、地水火風空の何かひとつ欠けても、“私”たちの存在や出会い、今日の出来事はないんだなーと日々感じて創りました。生まれも育ちも年齢もばらばらなのに、ここに集う不思議さに驚き、この感動をダンサー21人、ミュージシャン7人で表現できたらなーと思って踊ります。お客様もぜひ一緒に体感していただきたい初演で再演のないステージです。どうぞご来場ください。お願い申し上げます。

金沢景子

今回の曲を作曲された 坂本千恵さんにインタビューさせていただきました！

- ・地・水・火・風・空という東洋的なテーマをジャズでどのように作曲されるのかと、とても興味深いです。最初にテーマを言われたときどのように思われましたか？
- ダンスの作曲自体が初めてな上に、自然を想像させる一文字を提示され、果たして曲が作れるのかな？と思いました
- ・このテーマは作曲しやすかったとか、反対にしにくかったとか、ありましたか？
- テーマに対してのイメージを金沢さんから前もって細かく聞いていたので、どのテーマも作曲しやすかったです。テーマを提示される事によって普段作らないであろう曲ができて、とても満足しています
- ・この曲はこんな風に聞いてほしい、などありますか？
- 先日ライブでこの組曲を演奏した時、画家のお客様が風を聴いて、後日風の絵を書いてくださいました。視覚と聴覚でそれぞれが感じる地水火風空のイメージを持ってもらえればいいと思います
- ・いろんな分野の方々とコラボされていると思いますが、今回いかがですか？
- ジャズはテンポも長さもやる度にちがいます。今回は振付けとかいろんな事が絡んでくるので、送った音源と同じことができるだろうかという不安は正直あります。でもパフォーマンスは生物なので、私達演奏者は生でダンサーさんの動きを感じ、ダンサーさんは生で私達の音を感じその時にしかできない表現ができればいいなと思っています。
- ・作曲する時には、まずどんなことから始められますか？そして、どのようにして、曲を創っていくのですか？
- 浮かんできたメロディから広げていけます。あまり着地点は考えてないです。短時間で瞬発力で作るタイプなので、よくこんな曲作れたなといつも自分で感心しています(笑)
- ・クラシックから始められたと聞きましたが、どのようにジャズと出会われたのでしょうか？
- 子供の頃から楽譜にない事を弾きたいタイプだったので、大学で入部したジャズのビッグバンドでジャズに出会ってまさに自分が求めていた音楽だと思いました。
- ・さしざわりなければ、坂本さんのとある一日の過ごし方を教えてください。
- 簡単に掃除して簡単に洗濯して、あとは練習したり英会話の勉強をしたり、絵を描いたりしています。この2年くらいテレビを見る事をやめたので、とても充実した1日をすごしています。午後は子供達生徒さんのピアノのレッスン、ライブ。夜何も無いときは美味しいものを作って吞んでいます。
- ・今後の予定を教えてください。
- 東京で毎月いろんな形でライブしています。自分のオリジナル中心のバンドや、デュークエリントンのナンバーだけやるバンドやブラジル音楽をやるバンドなど。ひとつカテゴリーにだけにとらわれないで、いろんな人達といろんな音楽をやりたいと思います
- ・ありがとうございました！

ミュージシャンを紹介します！ by長谷川こうじ…ジャズをこよなく愛するドラマー

☆ドラムの深水さんのこと

出会った時から『スモさん』と呼ばせてもらっています。当時、深水さんの出したアルバムタイトルが【スモーキー・リング】で、そのスモーキーを縮めて『スモさん』になった次第。スモさん、なんて言うかこの人はどこでも溶け込むのが天才的に得意な人で垣根がまったくありません。初めて会って5分で友達、10分で親友、1時間も一緒にいたら親戚みたいな感じになる不思議な人。その包容力は当然音楽にも溢れていて、バラードなんて聞いていると思わず涙してしまう事もあったりなかったり、あつたりします。楽器の音色はその人自身の音色だと言った人がいました。スモさんの音色はまさにその通り。暖かくて優しく透明な音です。音もタバコの煙の輪もすぐに消えてしまう。そんな儂さを慈しむ魂が音に出ているんでしょう。きっとそうだと思います。

☆ベースの山田さんのこと

ミュージシャンはお酒好きが多いです。特にジャズミュージシャンは飲めないおと半人前扱いです。因みにボクは飲めません。酒粕を小指の先ほど口にしただけで顔が真っ赤になります。と、言う人の話を聞いてだけで酔います。ボク以外の今日のバンドメンバーはお酒豪揃いです。深水さんが東の横綱なら西の横綱は間違いなく山田さんだと思います。実に美味しそうに飲みます。グイグイじゃなくチビチビと長時間にわたって。近くで見ていると仙人が呑んでいるような風景です。酔っ払って古い時代劇や映画の話をしている時の山田さんは本当に楽しそうです。でも、山田さんの最大の楽しみはスキー。シーズンになると雪山田ヒロシに名前が変わり街中でお目にかかるのは非常に困難となりますので今回のチャンスをお見逃しなく！

☆テナーサックスの石田さんのこと

普段は石ちゃんと呼んでいます。現在は東京を拠点に活躍中ですが実は播州の出身。自称在日関西人。ノリの良さはやっぱり関西人特有のものです。ノリと言えばラテン系のダンス、特にサルサを踊らせたなら天下一品。「石ちゃんのサルサは最高！」と振れば「誰がサルやねんっ！」と返してくれます。実物をご覧になればこのギャグの意味が分かると思います。普段はこんな石ちゃんですが音楽の事になるとまさにプロフェッショナル。一切の妥協を許しません。ジャズ界のみならず歌謡界、演歌界の大歌手が信頼を寄せるのも当然です。年に何回かは関西のジャズミュージシャン達と大阪、神戸のライブハウスで演奏をしていますので是非そちらにもお越しくださいませ。

☆尺八の稲澤さんのこと

名前は笑う亀と書いてショウキ。いつも亀さんと呼んでいます。普通、亀さんといえばミドリ亀みたいな小さくて可愛い亀を想像しますがこっちの亀さんはデカイです。身長は190センチほどあります。そして合気道の達人でもあります。歩く抑止力みたいな人です。亀さんもお酒が大好きです。酔えば飛び出す話題の数々。音楽論、歴史論、政治論、民族学論など時間を忘れて永遠と続きます。ま、酔わなくても…話、長いです。亀さんの尺八を聴いていると日本の原風景が目の前に広がっていく感覚になります。日本を愛する亀さんの音、ここにあります。

☆鍵盤ハーモニ&パーカッションの坂本くんのこと

坂本くんは今回のリサイタルのピアニスト坂本千恵さんの息子さんです。普段は貴ちゃんと呼んでいます。若くて男前です。お姉ちゃんもプロのピアニストですからまさに音楽一家です。普段はドラマーとして活動している貴ちゃんですが、今回のように違う楽器での出演も快く引き受けてくれました。ビジュアル良し、性格良し、しかも実力派ミュージシャンって、どうよこれ。天は与え過ぎです。

☆ピアノの坂本さんのこと

今から5、6年前の事です。出張で東京に行った時、「今夜は素敵なピアニストもいるからおいでよ」とスモさんからセッションのお誘いがありました。そうと聞いたら行かない理由がありません。立川のライブハウスに急行です。店の入り口に続く階段まで来ると中の音が聞こえてきます。スピード感とエネルギー溢れるピアノの音も聞こえてきます。ワクワクしながらドアを開けました。予想に反して小柄な坂本さんが弾いていました。演奏を聴いて一発でファンになりました。今回のリサイタルでは演奏だけじゃなく全曲書き下ろしまで引き受けてくださって本当に感謝です。